

建設地	： 千葉県流山市	竣工	： 令和2年10月	敷地面積	： 689.96㎡
地域区分	： 6地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 173.31㎡
設計者	： (株)シティ環境建築設計	構造・階数	： 木造軸組・地上2階	建築面積	： 159.53㎡

## ■提案の概要

- 建設地は千葉県北西部に位置し、かつては江戸川沿いの低地に広がる田圃に張られた水の冷却効果を感じられる農村風景があった。そうした風土・文化的背景の中で、母屋と長屋門からなる農家型の屋敷構成、敷地内の屋敷林の再生を図ることにより、流山の建築景観の特徴が記憶から失われないよう配慮した住宅。
- 夏は南風が多い流山の風向きを考慮し、1階南面と南西角に大開口を設け、東西と北側に風が抜けるように引戸を中心に計画し、通風効果を高めた。建物周辺の地表面温度上昇を抑えるために、敷地内緑化率を高め、落葉樹の植栽を計画した。
- 夏の日射遮蔽を目的として南面の窓上に霧除けを、南や西面の窓に竹簾を設け、冬の日射取得のためには南と西面に大きな窓を設けた。
- 深い軒庇により日射調整を図り、土塗壁や無垢の厚板、畳（稲わら畳床）によって調湿性や保温蓄熱性を高めるなど、建築的な工夫により建物の環境性能の向上に努めた。
- 手刻みと組立、和瓦葺き、土塗壁、板金など手仕事を主体とする仕事の間を設けることにより、長寿命の家づくりに必要な維持管理を支える職人衆の技能の継承を図った。



農村的な景観の記憶を引き継ぐ長屋門と主屋



四季の変化を楽しむことができる落葉樹や畑のある庭



吹き抜け・高天井による明るく開放的な広間

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□深い軒庇  

南面と東西面に軒の出1,350mmの深い軒庇が設けられている。



深い軒庇

□多層構成の建具  

過半の窓に内障子を設置している。  
1階広間南面の全開引戸を、内障子、木製ガラス戸、網戸、雨戸の多層構成の建具としている。



多層構成の建具

□土塗壁  

竹小舞下地の厚さ70mmの土塗壁としている。



土塗壁

□複数の窓の位置による通風への配慮  

南面および南西角の大開口から吹き抜けを通じて、東面と北面の天窓に抜ける通風計画としている。



複数の窓の位置による通風への配慮

□畳（稲わら畳床）  

厚さ60mmの稲わら畳床、厚さ25mmの荒床杉の下地を使用している。



畳（稲わら畳床）

□敷地等建物周辺の環境配慮  

敷地内の小規模な屋敷林の再生、畑や敷地外周の生垣の設置などにより緑の連担を図っている。



敷地等建物周辺の環境配慮

□古材・リサイクル材の利用 

柱と板への古材利用の他、古障子、古襖、古板戸を再利用している。



古材・リサイクル材の利用

□地域に根ざす建物形態 

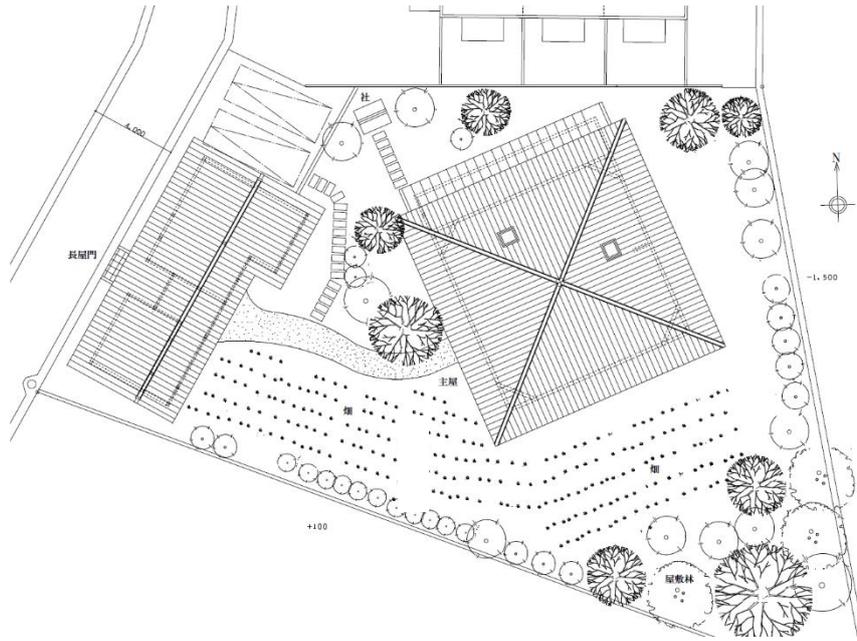
長屋門と主屋からなる農家型の屋敷構成とすることにより、かつて地域にあった農村景観の踏襲に配慮している。



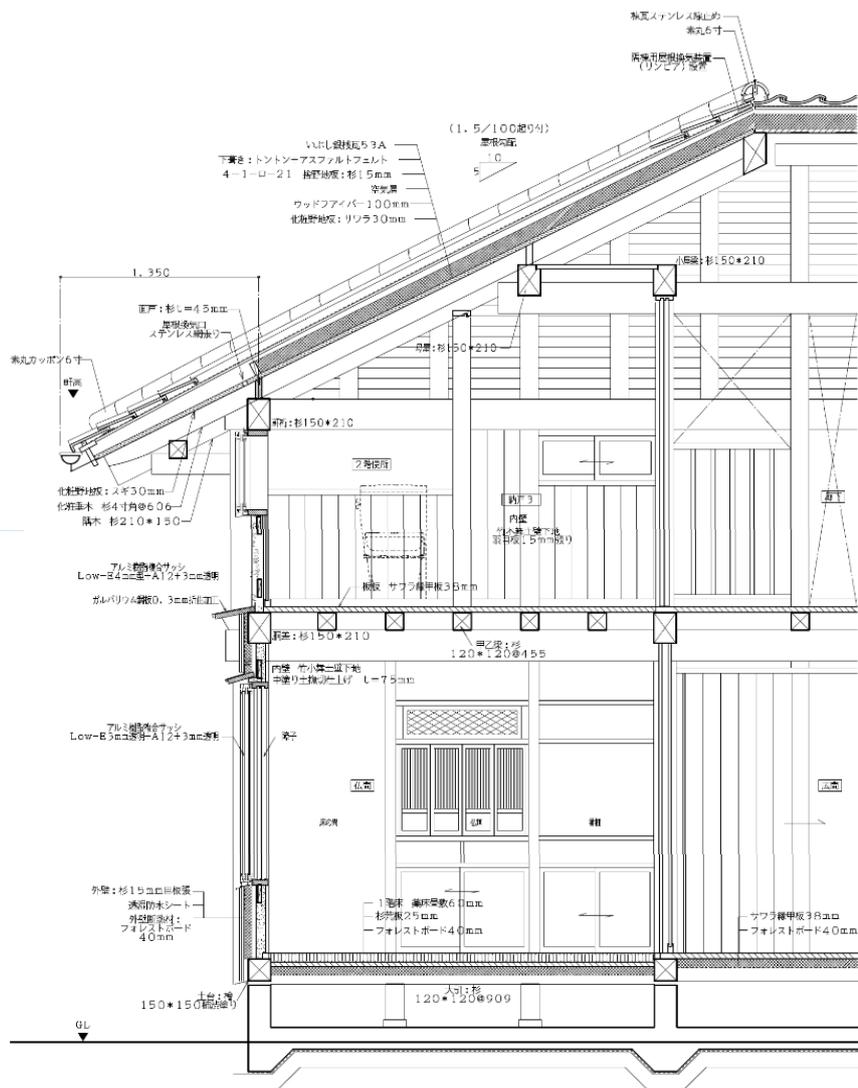
地域に根ざす建物形態

■エネルギー性能（採択時）

項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（千葉県流山市）	
外皮平均熱貫流率（ $U_A$ 値）	0.87以下	1.05 W/（ $m^2 \cdot K$ ）
一次エネルギー消費量	140.7以下	120.7 GJ/（戸・年）
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.84



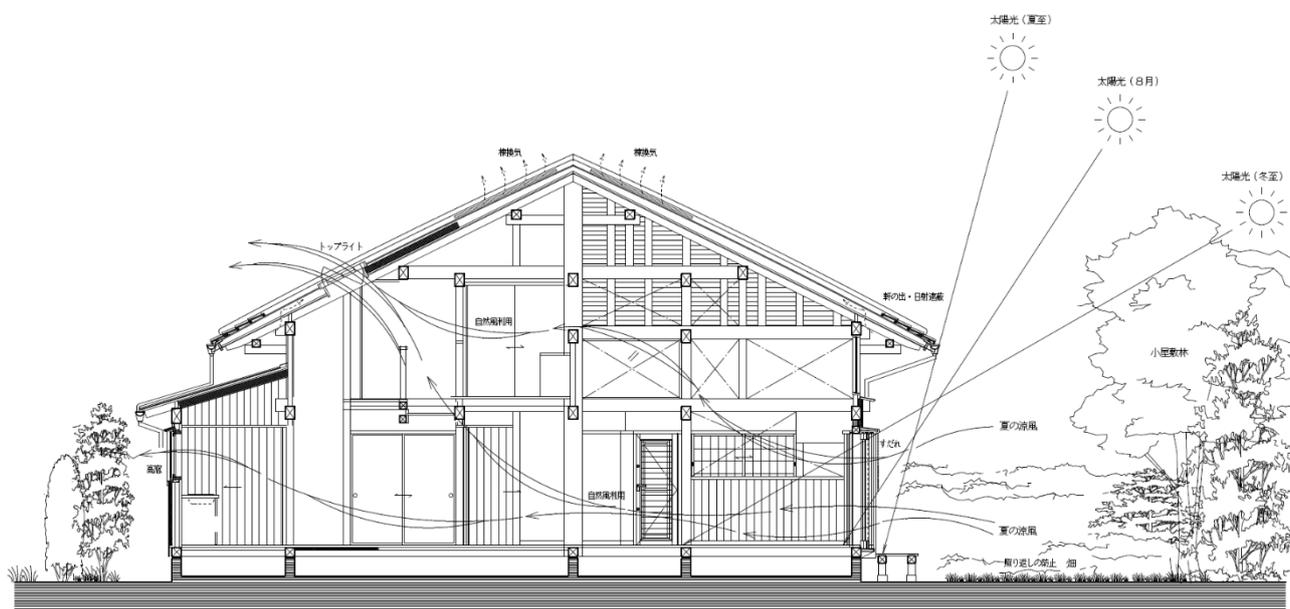
配置図



矩計図



西側立面図



南北断面図

### ■お施主様の声

季節の移ろいが感じられる健康によい家で、以前住んでいた家の古材を極力使うことを希望し、信頼できるシティ環境建築設計さんに依頼しました。

温もりを感じる厚みのある床板、ガラスの欄間を通して部屋の奥まで届く暖かな日射し、夏に窓を開けることで家全体を通り抜ける風の涼しさなどにより快適に過ごしています。

建具は前の家のものを再利用していただくとともに、照明器具の細かな細工を埋め込み、職人の技を受け継いでいます。存在感のある彫刻欄間もガラスの欄間に入れることで、影絵のような効果を楽しんでいます。

中高木の落葉樹からなる庭の小さな森を訪れる様々な野鳥や、敷地内に掘った井戸の水、庭の畑から採れる野菜、田圃で作る米で、自然や季節を感じながら、自給自足的な生活を楽しんでいきたいと考えています。

### ■設計者の声

たっぷりとした敷地に長屋門、板塀、主屋、植栽、畑などを配置することにより、農家型の風景が残る流山市に、地域の記憶を継承していく住宅を建てることができました。道行く人が振り返っていくような家となり、家づくりを通じて地域の人たちの接点づくりに役立ったと思っています。

以前の住まいから引き継いだ障子、襖、彫刻欄間、照明器具などを新築住宅に溶け込ませるため、設計・施工の両面において長考の結果、この家の特徴として伝統的な手仕事を残し、活かすことができました。

各職人の積極的な協力や丁寧な仕事により、桧材利用に対する強い思い、新設の井戸掘り、屋敷林の再生や移植した門破りのマキの木などを実現することができました。今後も、関係者とともに、地域文化とそれを支える技術継承のために力を合わせていきたいと思っています。